

市民・現場との合意ないのに

松代病院の診療所化条例提案するな！

県病院局は22日、県立松代病院の無床診療所化に関する説明会を大島区公民館で行いました。

はじめに病院局が、松代病院の現状と課題について改めて説明しました。その中で、同病院は小規模組織としての限界があること、医師3名の確保が来春以降困難で、その他のスタッフの確保にも苦慮していることなどを理由に、来年4月から入院診療所を十日町病院に移行させ、無床診療所に転換する方針であることを再度、示しました。そしてこの方針は7日、南魚沼市で行われた魚沼圏地域医療構想調整会議の場で合意されたこと明らかにしました。

これをうけて、12月定例県議会で

は、松代病院の診療所化に関する条例を提案する予定だとのべました。条例が議会で可決された場合は、来年2月頃から徐々に入院抑制を行い、3月末には入院患者がいなくなるにすることです。外来、訪問診療・訪問介護は継続するとしています。ただ、病院局は、現場の医師や看護師などの体制についてはいまだに合意に達してなく、合意したら、チラシを作成して明らかにするつもりです。

こうした説明を受け、参加者からは、「ここは豪雪地帯で災害と隣り合わせだ。人口減少などを理由に医療を効率でやるのではなく、皆さんが安心できるようにするべきだ。市民から納得してもらえらるまで（方針具体化を）のばしてほしい」などの要望が出ました。私からは、「依然として現場スタッフの体制が明らかにされないが、現場で合意できないのはどういう点が明らかにしてほしい」「3名の医師のうち1人の先生は県の方針には反対だ。強行するなら辞職すると松代会場で発言された。この先生とは合意できたのか」などと質問しました。これに対して病院局は、「主に十日町病院との役割分担で合意できていない」「（方針に反対された）医師とはその後、話をしていない」と答えました。

松代病院の無床診療所化方針については松代、松之山地域で6割、7割の住民が反対署名をしています。それに加えて医療現場ス



【シュウメイギク
(再掲) キンポウゲ科の多年草。漢字で「秋明菊」と書きます。秋の園芸種のなかで大好きな花の1つです。先日、ある家を訪れた時に、この花の手入れをされていた方がおられました。その人の人柄と花のイメージがぴたりでした。花期は9月から11月。花言葉は「薄れゆく愛」「淡い思い」。写真は17日、吉川区梶にて撮影。

とんでもない決議が…

9月県議会の最終日、とんでもない決議が行われました。自民、公明両党は、柏崎刈羽原発の再稼働について、花角知事が県民意思の確認方法として県議会での議決を求めることを誘導する決議案を提出し、賛成多数で可決したのです。

この決議を受けて花角知事は、「議会の意思が示された。十分踏まえながら検討したい」と評価しました。これはどうみても、いつときも早く原発を再稼働させようという茶番劇です。

馬場県議は反対討論の中で、「今、知事がするべきことは、公約の実践です。県民投票、県知事選という県民一人一人に再稼働是非の判断の機会を与えることが、公約の実践に他ならず、県議会の議決などありえません」とのべました。その通りです。

今後、原発再稼働の動きは一段と強まるに相違ありません。反対の運動を強めていきたいものです。



民から納得してもらえらるまで（方針具体化を）のばしてほしい」などの要望が出ました。私からは、「依然として現場スタッフの体制が明らかにされないが、現場で合意できないのはどういう点が明らかにしてほしい」「3名の医師のうち1人の先生は県の方針には反対だ。強行するなら辞職すると松代会場で発言された。この先生とは合意できたのか」などと質問しました。これに対して病院局は、「主に十日町病院との役割分担で合意できていない」「（方針に反対された）医師とはその後、話をしていない」と答えました。



農道でくつろぐ親鳥のオス（個体番号J0287）。白いサギと仲良くしていました。22日、大潟区にて撮影。



はしづめ法一の活動レポート

No.2225 2025.10.26

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznys_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七二回 季節の変わり目に

先日の朝の六時半頃だったでしょうか、私の部屋で仕事をしている時に、突然、雁（がん）の鳴き声が聞こえてきました。

スマホを持って大急ぎで外に飛び出すと、西（屋号）の家の上空の方から雁がカギ型になって飛んでくる様子が見えました。今年初めて見る雁行です。

杉林の上から次々と姿を見せる雁たちを見ていたら、「ああ、また冬が近づいて来たな」と思いました。そう言えば、先日の暑い日を最後にセミの鳴き声がまったくなくなり、雁の鳴き声もなくなりました。季節が秋から冬に向かって確実に動いていることを感じます。

今年の一〇月はいろいろと忙しかったのですが、私の周りでは、心をゆさぶる出来事がいくつもありました。

その一つは弟の三回忌法要翌日の朝のことです。私の地元、吉川区代石から柿崎区桜町へと車を走らせていたときでした。突然、車の後部が赤く包まれたのです。「どうしたのだろ」と車を止めると、後ろの方に見えた尾神岳上空の雲が真っ赤に染まっていた。時計を見ると、午前五時四六分でした。

私はこれまでの人生で何度か美しい朝焼けを見てきましたが、今回は亡くなった弟が大好きだった尾神岳の上空で細長く何重にも重なっていた雲が見事に赤く染まったこともあって、心が震えました。弟もこの朝焼けを見れば、絵に描きたかったに違いありません。

赤く染まるのは夕焼けと同じです。私の人生で出合った赤い雲のうち、最も感動したのはいまから六〇年前の三月一九日の夕焼けです。祖父が危篤になって、原之町の杉田医師（故人）を村屋まで迎えに出た時、西の空の一部が一瞬きれいな赤になりました。その時が祖父の息を引き取った時間でした。そのとき、「いいか、あにゃ、

おれが死んでも頑張れや」と祖父が私に呼びかけているように感じたものです。

一つ目は、私の最新エッセイ集、『母ありてこそ』にかかわる話です。一三日の朝のことでした。魚沼市在住のM子さんからスマホで、「アマゾンで取り寄せました。最近頭も身体もすっかり弱り、もつとすっかりしてもらいたいと思います。今、一生懸命読んでます」というメッセージが私の本を読んでいるお母さんの写真とともに届きました。

このお母さんは現在、八九歳。私の母とは気が合い、よくお茶飲みをしていた人です。もう何年もお会いしてないので、どうされているか気になっていました。写真で見る限りは、健康そのものです。そして、私の本を真剣な表情で読んでいてくださる、とてもうれしくなりました。

私が少年時代、青年時代を過ごした地、吉川区尾神を離れてすでに四三年になろうとしているのですが、同郷だった人が私の家族のことについていまだに思っていてくださるというのは、とてもありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

三つ目は二十二日の午前のことです。小学校、中学校時代、共に学んだY子さんと区内の施設の玄関でばったり出会いました。数年会っていないこともあって、会った瞬間、抱きしめたくなりました。すぐに一人の同級生の話になり、「介護施設に入所出来て良かったね」と彼女が言うので、もう一人の大事な同級生も入所したのと私が言う、「そう、病気が進んだのね」という言葉が返ってきました。

いまは季節の変わり目、市内ではハクチョウやガンなどが飛来しています。毎年繰り返される四季ではありますが、過ぐす人間は毎年歳を重ね、老いていきます。一日一日、同時代を生きている人たちとともに丁寧に生きていきたいと思っています。

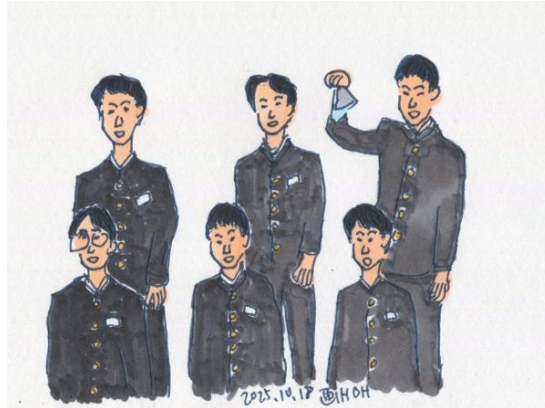
市内小中学校で文化祭、音楽祭開催

10月から11月にかけては文化行事が目白押しです。このところ、市内の小中学校では学校文化祭、音楽祭が次々に行われています。

18日は私の地元の小中学校で文化祭、音楽祭があり、参加してきました。

まずは吉川小学校です。注目したのは科学研究です。2人の児童が発表していましたが、その中でコウノトリのエサとなる生きものの観察記録、改めて見せてもらい、感心しました。そして音楽祭、1年生から6年生までみんな元気よく歌い、演奏していました。昨年からはまったという2年生の「いるかはざんぶらこ」という踊り（上のイラスト）、とても楽しそうでした。

午後からは吉川中学校の音楽祭にもお招きいただきました。先日、コウノトリの特別授業を行った2年生は、戦後80年経った今、平和への願いを込めて「平和の鐘」を見事に歌いあげました。こ



の日は、上越市市民吹奏楽団のみなさんも出演され、「運命」「星めぐりの歌」などを演奏されました。吉中吹奏楽部との合同演奏も素敵でした。下のイラストは2年生の合唱風景の一部です。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月15日(水)	10月22日(水)
上越消防署	0.053	0.053
上越南消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.053	0.046
名立分遣所	0.057	0.063
高士分遣所	0.050	0.053